

既習事項を想起して、自ら課題解決しようとする児童の育成

— タブレット端末の効果的な活用を通して —

特別研修員 特別支援教育 橋浦彰理（特別支援学校教諭）

【児童の実態】

- ・学習を積み重ねていくことが難しい。
- ・習ったことをできるだけ簡単に思い出したい。

【教師の願い】

- ・児童が必要な場面で既習事項を思い出す支援をしたい。
- ・児童が自力で課題解決できる場面を増やしたい。

タブレット端末の効果的な活用

【手立て 1】

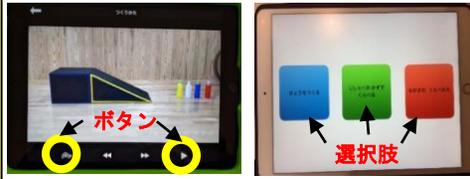
自分の視点に立って見ることができる動画



- ・児童が具体物を操作する手元を撮影したり、スクリーンムービーを使用したりして学習の記録を残す。
- ・情報を精選して編集し、児童が必要な情報を短時間で想起できるようにする。

【手立て 2】

必要な情報をいつでも入手できるアシストボタン



- ・操作するボタンに色をつけて、分かりやすくし、指一本で操作できるようにする。
- ・児童が必要なタイミングで、必要な情報を得ることができるよう、選択肢を設ける。

【手立て 3】

学びの過程を客観視できる「〇〇TUBE」



- ・児童が自分の言葉で説明して作る。
- ・課題を解決するまでの過程を追って撮影することで、解決までの見通し分かるようにする。

【授業実践】算数科 単元「ボウリングをしよう」

【手立て 1 実践例】

【展開の場面】



B児には、ブロックを並べて発射台を作る際に、どの面同士を合わせるとよいかの手掛かりを得られるように、手元を撮影した動画を視聴できるようにした。

【展開の場面】



A児が表に入力している場面を撮影し、グラフの学習につなげるようにした。

【手立て 2 実践例】

【展開の場面】



そうか。次はこうすれば、いいんだ。

B児には、発射台を作る際に、作る手順の例を示した動画をボタン一つで静止したりスロー再生したりして視聴できるようにした。

【展開の場面】



グラフの作り方はどのようにしてたかな。

A児には、「長さを比べよう」、「グラフの見方」、「グラフの作り方」の三つのアシストボタンを用意し、その中から必要な情報を選択し、課題解決の手掛かりが得られるようにした。

【手立て 3 実践例】

【振り返りの場面】



A児には、棒グラフのよさや見方のポイントなど、分かったことを教師と一緒に動画にまとめるようにした。

※「〇〇TUBE」の撮影は個別学習の時間も活用した。



作成した「〇〇TUBE」をアシストボタンに組み込み、次時や関連する他の単元で活用できるようにした。

【成果と課題】

- 既習事項の想起に必要な学習のポイントを、児童の視点に立って動画として撮影・編集し、タブレット端末を教材にしたことにより、児童が自ら動画を繰り返し見る姿が見られ、何度も既習事項を想起することができるようになった。
- アシストボタンや「〇〇TUBE」を使ったことで、児童が自ら課題解決の見通しをもつ回数が多くなり、自力で課題に向き合う時間が増え、課題を解決することにもつながった。
- 児童の課題解決スタイルによって、タブレット端末の提示するタイミングや必要な動画の見せ方などが異なるので、それぞれの児童に合った提示方法を引き続き考えていきたい。